

医療福祉活動演習（福祉） 【災害医療コース】

[講義・演習] 第3学年 後期 選択

[授業方法：SGD、PBLを含む]  
1単位

《担当者名》講師/櫻田 渉

准教授/浜上 尚也 講師/木村 治 助手/山本 隆弘  
 特別講師/木内 祐二（昭和大学医学部） 特別講師/亀井 大輔（昭和大学薬学部）  
 特別講師/根本 昌宏（日本赤十字社北海道看護大学） 特別講師/名倉 弘哲（岡山大学薬学部）  
 特別講師大澤 祐貴子（あしたば薬局） 特別講師/桂 正俊（（株）MKファーマシー） 特別講師/越智  
 哲夫（フィール調剤薬局寿店）

【概要】

災害時に薬剤師が医療の担い手の一員として、特殊状況下（被災地、被災者）に必要とされる医療、薬学の専門的知識、技術の必要性を理解する。さらに、災害医療現場で、薬剤師がどのような職能を発揮するか、さらには、新型コロナウイルス感染における現場での多職種連携についても学ぶ。

【全体目的】

近年、日本では、東日本大震災、阪神・淡路大震災及び新潟県中越大地震など震災が続いている。北海道でも、北海道南西沖地震、火山活動、台風被害等も多く発生している。災害時に果たす薬剤師の役割は、災害の規模、発生の時期（季節）、新型コロナウイルスの発生状況により様々であり、また情報通信の技術進歩等の周辺状況の変化を考慮すれば、将来のどのような場合においても、ある一つのマニュアルどおりに対策を講じることは適当ではなく、個別の事情に応じた創意工夫・臨機応変な対応が必要である。そのためには、様々なシナリオを想定した、より実際に近い体験学習、実技実習を行うことが極めて効果的であり、学生一人一人が想定した状況に立つことにより能動的に学修することが必須である。

【学修目標】

災害時の薬局の役割について説明できる。  
 セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。  
 フィジカルアセスメントについて説明できる。  
 患者を中心とした多職種連携について、体験する。  
 特殊条件下において、必要な判断と実践を体験する。  
 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴の手技を実践する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1~3	災害時における薬局の役割	地域における薬局の機能と業務について説明できる。 セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 災害時の薬局の役割について説明できる。  関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(4)- -1,3,4	桂 正俊 越智 哲夫  櫻田 渉
4~6	症候学 1. 症候学とは 2. 症状と疾病  症候学 1. 患者情報の把握 2. トリアージ 3. 受診勧奨	症候学について概略できる。 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等 一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す薬局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。（知識・態度） 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる《模擬》。（技能・態度） 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる	木内 祐二 亀井 大輔  櫻田 渉 浜上 尚也 木村 治 山本 隆弘

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>《模擬》。(知識・態度) 【PBL,SGD】</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(5)- -4、E2-(9)-1,5,7、E2-(9)-8、F-(5)- -2~4</p>	
7~9	<p>災害サイクルに応じた活動現場 1)急性期(救護所、避難所) 2)慢性期・復興期(仮設住宅) 3)静穏期</p> <p>災害サイクルに応じた活動現場 フィジカルアセスメント 1.血圧 2.心音、肺音、腸音 3.病態とバイタルサイン 4.皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴</p>	<p>保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる《模擬》。(知識・技能) バイタルサインについて概説できる。 バイタルサインの測定方法について説明できる。 心音、肺音、腸音の観察方法について説明できる。 病態の心音、肺音、腸音の変化について説明できる。 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。 予防接種の意義と方法について説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 D1-(2)- -4、E2-(9)-8、E2(9)-4、F(3)- -3,4 F(5)- -4</p>	<p>大澤 祐貴子 櫻田 涉 浜上 尚也 木村 治 山本 隆弘</p>
10~12	災害時における薬剤師の役割	<p>災害時薬局の役割について説明できる。 災害時における地域の医薬品供給-1 チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 【PBL,SGD】</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(4)- -4、F(4)- -1,2、F(5)- -1</p>	<p>名倉 弘哲 櫻田 涉 浜上 尚也 木村 治 山本 隆弘</p>
13~15	被災地を想定した避難所における薬剤師の役割	<p>地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる 避難所作成(段ボールベッド)について概説できる。 非常食の作成について概説できる。 【PBL,SGD】</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(4)- -4,5、F(5)- -2、F(5)- -1</p>	<p>根本 昌宏 櫻田 涉 浜上 尚也 木村 治 山本 隆弘</p>

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度40%、レポート60%で評価する。

【教科書】

講義プリント配布

【備考】

- ・講義開設の全日程を受講できること
- ・岩手県現地視察（希望者のみ、自費負担）
- ・一次救命救急（異物除去、気道確保、AEDの使用方法）の修得（希望者のみ、教材費自費負担）
- ・多職種連携、他学部とワークショップを開催する（日程は別途掲示）
- ・口腔ケアアンバサダー試験を受験（無料）

【学修の準備】

授業範囲を予習し、疑問点等を把握しておくこと。（40分）

教科書、配布プリント等を活用した復習を行い、授業内容の理解を深めること。（40分）

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

A 基本事項

(4)多職種連携協働とチーム医療

(5)自己研鑽と次世代を担う人材の育成【 学習の在り方】

B 薬学と社会

(4)地域における薬局と薬剤師【 地域における薬局の役割】 【 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

E2 薬理・病態・薬物治療

(9)要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

F 薬学臨床

(3)薬物療法の実践【 患者情報の把握】 【 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

(5)地域の保健・医療・福祉への参画【 災害時医療と薬剤師】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

櫻田 渉（薬剤師） 浜上 尚也（薬剤師） 木村 治（薬剤師） 山本 隆弘（薬剤師・看護師）  
木内 祐二（医師） 亀井 大輔（薬剤師） 根本 昌宏（薬剤師）  
名倉 弘哲（薬剤師） 桂 正俊（薬剤師） 越智 哲夫（薬剤師）  
大澤 祐貴子（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

櫻田、木内、亀井、根本、名倉、桂、越智、大澤は、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震の医師及び薬剤師として支援活動の経験があります。災害時、薬剤師として、何が必要なのか、講義又はグループワークを通して経験して頂きます。

山本は看護師免許を持っている薬剤師、これから必要をされる注射等の手技をわかりやすく説明、実習をしていきます。